

針☆通☆電



◆はじめに

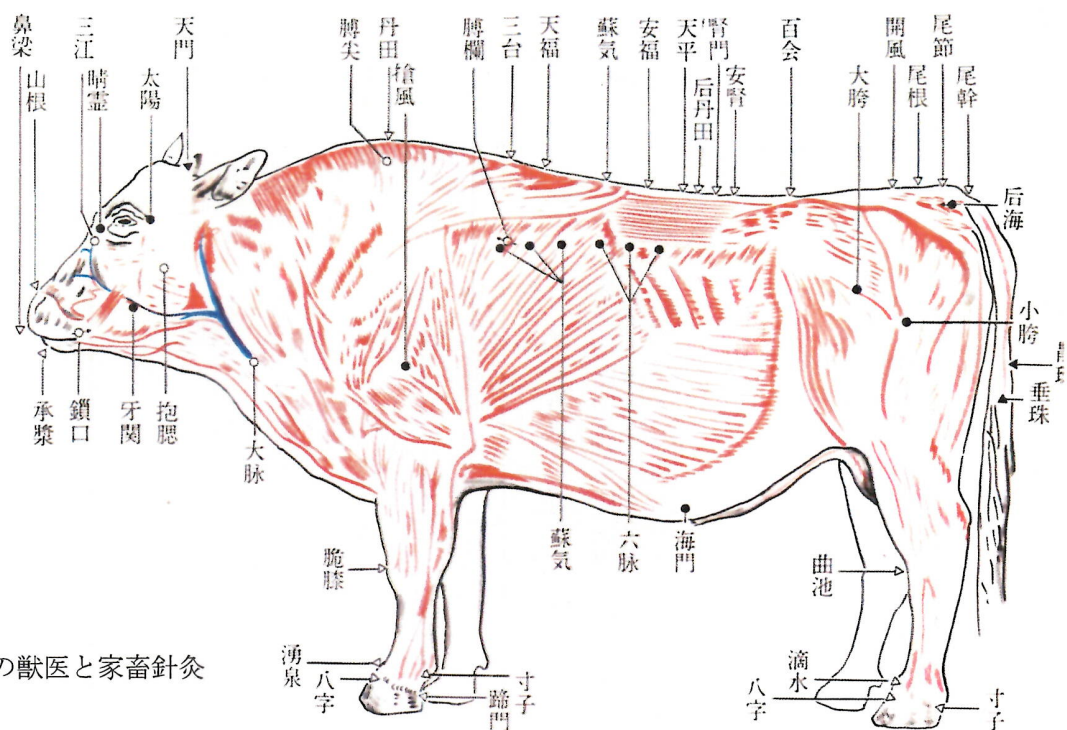
中国の経路理論に立脚した針灸療法は 4000 年の歴史を持ち、西洋医学とは異なった特徴をもっています。しかし用手的に刺激を調節する針治療は、施術者による匙加減を客観的に規定することが困難であることから、その経験を他の施術者に伝えることが難しく、そのため本法が有効であることが知られつつも、その普及が制限されてきました。そこで近代になり、針の刺激を電氣的なエネルギーによって行うことが試みられ、刺激量の規格化の方向が示されてきました。つまり、誰がやっても同様の結果を再現できるように、針通電は開発されたといえるでしょう。

しかしながらその刺激の適否を動物から言葉で聞くことはできないため、適正な針刺激条件は現在もなお提示されず、個々の症例経験を累積することでしか確実な施術条件を見出すことは出来ないというのが現状です。今回は、針通電に非常に手応えを感じた症例があったため、紹介します。

◆症例

死産の軽度難産によって閉鎖神経麻痺を引き起こしていると疑われる症例。無事娩出後、半日後に起立不能。以後、薬剤治療を続けるも起立できず。吊起により四肢負重可能だが、数分で崩屈。起立不能 3 日目にダメもとで針通電を開始し、試験的に 3 日間継続で針通電を施術。

穴位：すべて百会および尾根。針は注射用カテラン針を使用。



出典：中国の獣医と家畜針灸

針は 4~10cm の深さで刺し、通電の周波数は 2~30Hz とした。電圧は通電しながら少しずつ上げていき、最終的に 8V あるいは 10V まで加減しながら刺激を行った。電圧の上昇も下降も緩やかに行い、治療時間は 15~30 分とした。

◆経過

通電中における患牛の反応は、背弯や尾の緊張、後軀の緊張で確認され、はじめ治療期間を3日間とし、3日目終了後に起立が可能となり、さらに延長して3日間行った。針通電初めの3日間に薬剤治療は行っていない。目的は後軀神経の刺激による、起立不能症の改善であったが、施術直後に食欲の改善も認められたため起立可能となった後も継続した。しかし、針通電との関連はわからないが、最終日に第四胃右方捻転を突発的に発症し、開腹手術を行った。現在は回復している。



◆参考資料

古い資料であるが、家畜診療の1981年11月号に【牛の後軀運動障害に対する針通電療法の経験】という記事があり、針通電療法を試みた18症例の表があったので紹介する。

表1 通電治療一覧

番号	種類	性別	年齢	病名	経過	現症	針治療開始期日	穴位		通電条件			回数	反応・経過	効果	転帰
								+	-	Hz	V	分				
1	ホルスタイン	♀	4	産後起立不能症	分娩2日後発症 8回薬治療 (CDM, AD ₂ , E, V, B ₁ etc.)	左後肢ナックル状 負重不能	10	百合	尾根	20	2~5	5	7	通電瞬間自立、全身緊張気味、百合一尾根が最も効果的	有効	20日で治癒
2	ホルスタイン	♀	7	産後起立不能症	分娩4日後発症、3回薬治療(CDM, AD ₂ , B ₁ , イノシン)	起立不能 食欲元気がなし	2	百合	尾根	30	2~4	15	1	通電時起立せんとするも崩倒	不明	3日目で治癒
3	ホルスタイン	♀	7	産後起立不能症	分娩2日後発症 3回薬治療(CDM)	起立不能 食欲元気があり	1	百合	尾根	30	5~6	1	1	通電時起立せんとするも崩倒	不明	3日目に治癒
4	ホルスタイン	♀	7	産後起立不能症	分娩翌日発症 2回薬治療(CDM, B ₁)	起立不能 褥創中程度	3	尾根	百合	30	2~3	20	1	通電直後助力起立2~3日歩様踴躍	有効	7日目に治癒
5	ホルスタイン	♀	3	産後起立不能症	分娩時発症 4回薬治療(鎮痛、B ₁ 、湿布)	右後肢ナックル状 負重、歩行困難	6	百合	右大転	30	0.5~1	20	2	通電時後軀緊張右後肢挙上、3日で瘡状消失	著効	9日目で治癒
6	ホルスタイン	♀	3	産後起立不能症	分娩翌日発症、3回薬治療(CDM, B ₁ , AD ₂)	起立意欲なし	3	百合	右大転	30	2~3	30	3	後軀緊張、自力負重、軽歩行を後遺	有効	10日目に治癒
7	ホルスタイン	♀	6	産後起立不能症	分娩翌日発症 3回薬治療(CDM, B ₁)	吊起により瞬間起立、すぐ転倒	5	百合	両大転	30	2	20	1	通電直後自力起立以後起立自由	著効	5日目に治癒
8	ホルスタイン	♀	8	産後起立不能症	分娩(難産)後2日に発症 4回薬治療	衰弱著明	5	百合	尾根	30	3~5	5	1	後軀緊張するも起立意欲示さず	無効	廃用
9	ホルスタイン	♀	4	産後起立不能症	分娩後4時間で発症 1回薬治療(補液、強心)	起立不能 怒責強	1	百合	尾根	10	2~3	10	1	通電後起立怒責軽減	有効	翌日治癒
10	ホルスタイン	♀	9	起立不能症	突然発症 薬治療せず	起立不能 皮温不整	1	百合	尾根	30	1~5	10	1	通電時腰を浮かす	有効	翌日治癒
11	ホルスタイン	♀	4	起立不能症	2週間前より起臥困難 薬治療せず	起立不能、 食欲元気が普通	1	百合	尾根	30	6~8	10	1	通電後起立	有効	翌日治癒
12	ホルスタイン	♀	6	起立不全	漸次起立困難となる 5回薬治療(CDM, 強肝剤)	起立困難、流涎 やや神経過敏	7	百合	大転	30	3	20	1	通電後徐々に好転	不明	3日後に治癒
13	ホルスタイン	♀	6	起立不全	起臥時に時間を要す 1回薬治療(ザルプロ、B ₁)	後軀振盪 歩様やや踴躍	2	百合	大転	30	3~4	20	1	翌日より起臥容易となる	有効	4日後に治癒
14	ホルスタイン	♀	4	坐骨神経不全麻痺	右後肢跛行、 3回薬治療(ザルプロ、B ₁)	右後肢球節ナックル状 跛行	1	百合	大転	30	3	20	1	跛行およびナックル状軽快	不明	3日後に治癒
15	ホルスタイン	♀	2	大腸捻挫	90日前大腸捻挫 5回薬治療(鎮痛、消炎)	歩様踴躍	90	百合	大転	20	3~6	5~10	4	歩様回復、尾力やや回復、失禁変らず	やや有効	廃用
16	あか毛和種	♀	6か月	腰部捻挫	9日前腰部捻挫 3回薬治療(鎮痛、消炎)	歩様踴躍	9	百合	大転	10	1.5~2	5	2	通電後も症状変わらず	無効	?
17	ホルスタイン	♀	10	右腕跛行	突然右後肢跛行 薬治療せず	起立時右後伸張振盪、 跛行	1	百合	大転	30	2	5~10	2	通電後症状著しく改善	著効	2日後に治癒
18	ホルスタイン	♀	8	右腕跛行	起臥に時間を要す 薬治療せず	右後肢振盪 負重を嫌う	1	百合	大転	30	2	20	2	通電後起臥容易となる	有効	転売

上の表における症例では薬物療法の有無や針治療開始までの経過が様々で、針による治療効果の判定は困難であるが、短時日で治癒した著効例(上の表で5,7,17の3例)や比較的短時日治癒の有効例(8例)となり、結果としてはやや有効以上の症例は18例中12例で66.6%を占め、無効例は2例、11.1%であった。すべてにおいて副作用は、局所的にも全身にも認めなかったようである。

◆まとめ

現在の獣医療はエビデンス（科学的根拠）に基づく西洋医学的化学療法が中心であるが、作用機序は明らかでないにしても、針通電療法は従来からの人での経験的な施術例の集積から考えて運動器障害にとって、副作用が少なく期待できる治療法であるといえる。よって今回は畜主の希望も伴い、針通電治療を試みた。

針治療を実施するにあたって、まず考慮しなければならないことはどの経穴を選ぶかという事らしい。疾病の部位と性質から選定するようだが、その選択には深い理解と熟練の技術が必要である。牛の後躯の神経障害及び筋肉障害に対する経穴は 10 以上あるようだが、これらのうち百会は馬、豚、犬などの他の家畜でも後躯運動障害の重要な経穴とされており、文献上はこれを主穴として最も効果的な組み合わせが百会－尾根という結果であったため、これを採用した。

一般にヒトでは神経－筋肉疾患に対する電気治療の治療間隔は毎日よりも 2~3 日に 1 回程度の方が良いとされているが、針通電療法についての規定はなく、動物においての症例も少ないことから結論を導くことは難しい。またペット分野においては数日おきに長いものでは数カ月間の治療期間をかけて改善する例もあるようだが、長期治療は産業動物では現実的でない。しかし、著しく高価な道具を必要とせず、治療効果に手応えを感じられる本治療方法は、薬物療法のみで改善しない症例において試みる価値のある手段であると感じている。牛へのお灸治療がとくに西日本で一般的に行われているように、針についても一つの選択肢として今後発展していくことを願う。

参考文献

- 1) 家畜診療 第 221 号 (24) 桑原正幸
- 2) 中国の獣医と家畜針灸 (1987) 笠崎龍雄 清水英之助
- 3) 畜産の研究 (1979) 中村良一



先日の別海町パイロットマラソンを完走してまいりました！！タイムは 4 時間 28 分で、初のフルマラソン完走です。さらに、翌日 10 月 5 日の北海道新聞にカラーで僕が先頭で走る写真が掲載されています。横からなのでわかりにくいと思いますが、釧路の友人からも写真が載っていると連絡があり、嬉しかったです。しかし、某 S 竹社長の妨害まがいの応援もあり、精神的に鍛えられた過酷なマラソン大会でした。人間として一つ大きくなれた気がします。

僕のトータルハードで働ける期間も残すところ半年を切ってしまいました。今年度 3 月いっぱいまでお世話になる予定です。思い返せば、農家さん、牛たち、トータルのみなさん、関係者の方々に多大なご迷惑を振りまきながら過ごしてまいりました。

残りわずかではありますが、微力ながら少しでも恩返しをして栃木へ帰れるよう、ラストスパートを精進精進で、走り抜きたいと思います。よろしく願致します。

てらうち

